

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600512		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 小森野		
所在地	〒830-0001 福岡県久留米市小森野5丁目15番18号	0942-36-5761	
自己評価作成日	平成26年02月25日	評価結果確定日	平成26年03月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の中に位置し、道を挟んだ隣には小学校があります。登下校中の小学生たちがホームを通りかかる時に、気軽に挨拶をしてくれるので、入居者の皆様に大変喜ばれています。近所にある徒歩でも行けるスーパーやドラッグストアで買物を楽しんだり、神社、公園も近いので散歩に出掛けては、地域の方々と挨拶を交わし、お話をしたりと交流を深めています。ホームの中庭では、季節の花々や野菜を入居者と一緒に育て、一緒に収穫し、食材として利用しています。今年は数年後にホームでお花見ができるようにと桜の苗木を植樹しました。訪問看護師による週1回の健康管理、医療機関においても2週間に1階の往診、24時間体制の医療連携体制を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

久留米市郊外の筑後川と、宝満川に囲まれた中の畑が広がる住宅地の一角に、家庭的な雰囲気の2ユニットのグループホーム「ニチイケアセンター 小森野」がある。ホームの正面に小学校があり、グラウンドを走り回る子供達の、賑やかな声や、動きを追う利用者の顔が、思わず微笑み、子供たちから沢山元気を貰っている。ホームのニチイ祭りや、運営推進会議に、家族や、地域の方が参加し、楽しい地域交流が始まっている。協力医療機関の医師による、往診は、緊急時や夜間も対応し、24時間利用者や家族が、安心して任せられる医療連携体制が整い、利用者が、何時までも、住み慣れた地域の中で、暮らしの継続が出来るように、支援されている。また、調理上手な職員が作る料理は、味、彩り、盛り付けに工夫し、利用者の食欲増進に繋がり、健康の源として、家族の評価も高いグループホームである。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成26年03月12日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時の申し送り、ホーム会議時に管理者と職員で毎日唱和し、理念を共有し、実践に取り組んでいる。 ホーム独自の理念を掲示している。	法人の経営理念と、ホームが目指す介護のあり方を示した独自の理念を掲示し、毎朝の申し送りや会議の時に唱和し、理念の意義を理解している。職員は、微笑みを絶やさず、いつも笑顔で利用者に接し、利用者一人ひとりに合わせた介護の提供に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の夏まつりや運動会等に職員と一緒に参加し、地域交流に取り組んでいる。また、買物、散歩時に挨拶を交わしたり、話しをして交流を深めている。	毎年、ニチイ祭りを開催し、家族や地域の方の参加で賑わい、地域の夏祭りや運動会の見学、隣接の小学校4年生25名の体験学習の受け入れ等で、地域との活発な交流の輪が広がっている。また、小学校教職員の研修受け入れを行う等、グループホームを理解してもらう好機と捉えている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヶ月に1回、「小森野だより(サービスの取り組み、状況)」を地域住民の方々に配布している。今後、地域貢献できるように取り組んで行きたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、行事、状況報告、行事予定等の実施報告を行い、ご家族・介護保険課・地域包括支援センター・まちづくり運営協議会会長・自治会長の意見を、職員間で検討し、サービスの向上に活かしている。	会議は2ヶ月毎に開催し、家族や地域代表、行政が出席し、ホームの運営状況や取り組み、困難事例、事故報告等を説明し、参加委員からは、質問や要望、情報等を出して貰い、外部の参加者の目を通して意見交換し、充実した会議になっている。出された意見は検討し、ホーム運営に反映させている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に相談し、助言をもらっている。運営推進会議時に市の担当者、包括支援センター職員に報告を行い、アドバイスをもらったり、意見交換を行っている。	管理者は、行政担当窓口と情報交換を行い、疑問点や困難事例を相談し、助言を貰っている。運営推進会議に、行政職員や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情について理解を得た上で意見交換を行い、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議にて、身体拘束廃止マニュアルをもとに定期的に勉強会、話し合いを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議や勉強会で、身体拘束について学び、職員は、言葉や薬も含めた拘束が、利用者に与える影響について理解し、具体的な禁止行為を見直し、利用者が安心してホームで暮らせる介護を目指し、「身体拘束をしない・させない」を合言葉に、ケアの実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議、または研修時間を作り、高齢者虐待防止の勉強会を行い、職員全体で虐待が見過ごされることがないように防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議等にて、勉強会を実施している。必要とされる利用者、ご家族へ情報提供を行い、活用出来るよう支援している。	制度活用の利用者がいるため、職員は、権利擁護に関する制度が利用者にとって重要である事を理解している。資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から、制度の内容や必要性について問い合わせがあった時、管理者がいつでも説明し、関係機関へ橋渡し出来る体制がある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ご家族と契約書の読み合わせを行い、疑問等尋ねながら理解、納得して頂き、同意を得ている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、ご家族の面会時においてお願いをして、意見や要望を聞いている。 毎月職員からご家族に便りを書いて近況報告をし、3ヶ月に1回のホームだよりを配布している。	家族の面会や行事、運営推進会議の時に、職員は家族の意見や要望、心配事等を聴き取り、業務改善や介護計画に反映させている。また、敬老会やニチイ祭りの時に家族会を開催し、毎月、担当職員が利用者の近況を知らせる手紙を送付し、年4回の「ほほえみだより」と合わせて、家族の安心と信頼に繋げている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、ユニット会議にて職員から意見や提案を聞き、話し合いを行い、意見を取り入れ、反映している。	ホーム会議やユニット会議を、毎月別々に開催し、職員の意見や要望、提案等を出して、業務改善や介護計画作成に活かしている。毎日の申し送り時に、職員の気づきや意見を出し合い検討し、早期解決に向けて取り組んでいる。また、管理者は、定期的に職員の個人面談を行い、職員の悩みや心配事にも配慮している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力、実績、勤務状況を把握し、資格習得の推進を行っている。各自が向上心を持って働けるような環境作りに努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢の制限はなく、採用に繋げている。職員の能力を発揮して勤務ができるよう、社会参加や自己実現の権利が保障されるよう、職場の環境整備に取り組んでいる。	職員の休憩室やロッカー、休憩時間、希望休に配慮し、管理者は、職員の特長や不得手な部分を把握し、適材適所の担当や勤務体制を整え、職員一人ひとりが生き生きと働ける職場環境作りに取り組んでいる。また、職員の介護技術の向上を目指し、新人研修やスキルアップ研修を採り入れ、資格取得のためのバックアップ体制も整っている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム会議において入居者の尊厳、プライバシーについての勉強会を行い、啓発活動に取り組んでいる。	勉強会の中で、利用者の人権を守る取り組みについて学習し、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮した介護サービスに取り組んでいる。利用者の居室に入る時には、「お部屋に入らせて頂きます」の声掛けを必ず行い、利用者を敬い尊重して、利用者が安心して穏やかな暮らしが出来るように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、会社内の勉強会、法人内外の研修会等の研修情報がある時は随時掲示し、朝礼時に参加を勧めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の同サービスとは、月1回会議にてサービスの質を向上させていく為、話し合いを実施しているが、他同業者とは交流する機会が少ないので、今後は地域での研修会に積極的に参加し、交流する機会を作っていきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員がコミュニケーションを蜜に取りながら、安心して頂けるよう、不安なことや要望を聞き入れている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人、ご家族の要望・意向を取り入れ、話し合いを行う。入居後は、日中の様子、変化を把握し、安全・安心して頂くよう、そのつど本人の話を傾聴し関係作りに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の意向、入居前の生活情報の聞き取りを行い、カンファにて職員と話し合いをし、必要としている支援を見極めるよう努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から教えられる時もあり、介護される一方の立場に置かないよう努め、コミュニケーションしながら、お互いの関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、状況等を報告し、また、定期的にご家族に状況報告を行い、どんなことでも共有し、話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来られる方は少ないが、いつでも気軽に来て頂けるような雰囲気作りに努めている。また、支援して行きたい。	年々、面会者が減少する中で、家族にお願いし、病院受診時に自宅に寄りたり、行きつけの店で食事をしたりしている。また、居室に仏壇を持ち込まれている利用者は、仏壇に供える花や、日用品を馴染みの店に買いに行く際は、同行する等、利用者が長年築いてきた人間関係や、地域社会との関係が継続出来るように取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握している。居室に長く1人にならないよう心がけ、レクの参加等、声かけをしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には説明し、困った事があれば気軽に連絡して下さいと伝えている。また、いつでも気軽においで下さいと伝えている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望を傾聴し、記録し、月に1回のユニット会議、カンファにて情報を共有し、話し合いを行っている。意思疎通が困難な場合は、本人本位に検討している。	ほとんどの利用者が、自己選択・自己決定を表されるので、将来に備えて、アセスメントに詳細に記録し、意向の表出が困難になっても、記録を読み返して利用者に対応出来るよう取り組んでいる。また、職員は、入浴の時間や、個別での散歩の時に、1対1でゆっくり話す時間を設け、利用者の思いや意向、不満等を聴き取っている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントを行い、サービス利用時の状況等、情報収集し、既往歴、生活状況、心身状況、馴染みの暮らし等を、本人、ご家族から話を聞いて情報の把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録にて1日の状態、健康状態が把握できる。夜間帯の様子は朝礼の申し送りにて把握している。また、申し送りにて職員全員に周知している。入居者に急変がある時も、そのつど申し送りにて把握するようにしている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族と話し合いを行い、また、担当職員と職員との情報を交換し、カンファにて話し合いを実施している。本人にとって生活しやすいためにどんな支援が必要か時間をかけて職員と話し合いを行い、プランを作成している。	介護計画は、利用者や家族の意見や要望を聴き取り、担当者会議を開き、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。利用者の状態変化に合わせ、家族や主治医と話し合い、利用者の希望を取り入れ、介護計画をその都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に1日の状態、気づき等をそのつど記録している。また、職員間で情報を共有し、状態・変化を把握し、介護計画の見直しを実践している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化に応じて随時の見直しを行っている。既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏まつりや行事の参加時、ボランティアの方々との交流を行い、入居者が安全で日常の中で楽しむことができるように努めている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望を優先し、かかりつけ医を受診されている。また、提携医療機関においても24時間対応、2週間毎の往診を支援している。ご家族とも連絡を取りながら、主治医、提携医療機関にて適切な医療がうけられるように支援している。	利用者や家族の希望を優先し、利用前からのかかりつけ医と提携医を選択してもらい、家族の協力により、かかりつけ医の受診をしている。また、協力医療機関による2週間毎の往診と、毎週の訪問看護の連携で、24時間オンコール体制を整え、利用者の健康管理は充実している。また、主治医に渡す医療情報を家族に提供し、家族との情報の共有を図っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と連携しており、24時間体制、1週間に1回の訪問にて健康管理、急性増悪時の対応等、個々の利用者が適切な看護を受けられるように支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、情報提供を行い、安心して治療できるようにしている。また、病院に通い、看護職員より症状を聞いている。退院に向けてソーシャルワーカーと連絡を取り合い、ご家族と相談・話し合いをしている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に重度化した場合における対応に関わる指針を説明後、同意の上サインを頂いている。重度化した場合、早い段階からご家族・本人と協力医療機関・主治医との話し合いを行い、ホームでできることを取り入れ、本人に負担がないように支援に取り組んでいる。	ターミナルケアについて、契約時に利用者や家族に説明し、承諾書ももらっている。利用者の重度化が進む中、家族と段階的に話し合い、主治医を交えて相談し、利用者にとって最善の方法を検討している。訪問看護を始め、関係者で相談しながら、利用者にとって一番良い方法の、終末期について方針を確認し、ホームで見る事を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	突発的な事態が起きて、慌てることなく迅速な対応ができるようにホーム内にて、マニュアルをもとに非常時・災害時の対応、事故防止と緊急時の対応等勉強会を実施している。職員も救命講習を受けており、今後も定期的に訓練、勉強会を実施していく		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を行っている。消防署の指導にて避難訓練を実施しているが、地域住民との協力体制が充分ではないので、今後、避難訓練時に参加していただける協力体制を築いていきたい。	年2回避難訓練を実施し、1回は、消防署の参加を得て、避難経路や非常口、避難場所を確認し、利用者が安全に避難出来る体制を整えている。非常用食料や飲料水の備蓄の用意もある。また、非常時には、近隣住民の協力が不可欠であり、日頃からの関係性を大切にしている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内にて研修を実施しており、プライバシーを損ねないように配慮し、本人の状態に合わせて、ゆっくりと支援している。	利用者の尊厳が守られた暮らしのあり方を、研修会の中で学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアの実践に向けて取り組んでいる。また、利用者の個人記録の保管や、職員の守秘義務について日常的に説明し、周知が図られ、個人情報保護についてのテストを毎年実施する等、法人全体で力を入れて取り組んでいる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に時間をかけて説明を行い、日常生活の中で自己決定できるように働きかけている。動作や表情にて判断する場合もある。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	プライバシーを損ねないよう配慮し、本人の状態に合わせて、一人ひとりのペースを大切にしよう努めている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれができるよう、本人の希望を確認している。また、2ヶ月に1回、あるいは希望時に理美容訪問を支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者がその時の状態により、職員と食事の下準備をしたり、盛り付けをしたり、一緒に食器を片付けたりしている。また、職員も昼食と一緒に摂っている。	新鮮な食材を使い、ユニット毎に職員が作る、家庭的で美味しい手料理を提供している。食事のいい匂いが漂うリビングルームに集い、利用者の間に職員が座り、持参の弁当を広げて、会話しながら一緒に食事を取っている。また、利用者の残存能力に合わせた調理や片づけを手伝ってもらい、生きがいのある暮らしに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社からの献立(管理栄養士作成)にて、提供しているが、食材により一部アレンジする場合もある。食事は一人ひとりの状態によって食事作りをしている。摂取量はそのつど記録し、水分量が少ない時は嗜好品で確保している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の力を引き出しながら、口腔の清潔を支援している。義歯の洗浄、出血や炎症のチェックを行っているが、場合によっては、訪問歯科を依頼、または、歯科受診を支援している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンを把握し日中の動作によって導き、トイレで排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を基本とし、日中は全員トイレ誘導を行っている。職員は、利用者の生活習慣や排泄チェック表を把握し、自立の方も記録を見て、しばらく行かないようであったら声掛けし、トイレでの排泄に向けた支援に取り組んでいる。また、パットやオムツの使い方の講習会を行い、オムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状態を観察、パターンを把握し、飲食物の工夫、水分量の確保、散歩を心がけている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調を考慮して、気持ち良く入浴が楽しめるよう配慮している。体調によって入浴できない場合は清拭を行なっている。	入浴は一日おきに行い、利用者のバイタルチェック表を見て、体調を考慮した入浴支援を実施している。また、入浴を拒否する利用者には、その時の利用者の気分を尊重し、無理強いをせず、「今日はダメ」と言われたら、「明日入りましょうね」と答え、清拭等で対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズム、安眠策を職員で話し合っている。就寝時間などは、一人ひとりに合わせて対応している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬を把握し、薬の説明書をファイルに綴じて、いつでも確認できる様にしている。薬の変更時には、申し送りにて共有し、薬の副作用がないか等、症状の変化を観察し、変化があった場合は、提携医療機関・主治医と迅速な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日帰り温泉、行事等の参加、地域の夏まつり参加等、気分転換を支援している。また、一人ひとりができること、食事の下ごしらえ、洗濯物たたみ、テーブル拭き等無理なくできるよう支援している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム近くの神社等、散歩したり、買物に行ったりしている。気候の良い日は、体調確認しながら、散歩に行くよう支援している。	「今日は、良い天気だから、外に行きましようか？」と声掛けし、数名ずつホームの周りの散歩に出かけ、菜の花を摘んで帰って来たり、日常的に出来るだけ外の空気に触れ、季節を感じてもらえるよう支援している。日頃行けない筑後川花火大会や、吉野ヶ里温泉等にも出かけ、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少しのお金は、ご家族と話し合いいただき持たれている方もいる。必要なものがあればお小遣いをお預かりしているので、買物の支援をしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望時、職員が番号を押し、本人に渡している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはクリスマスツリーを飾ったり、七夕飾りを飾ったりしている。また、中庭では、花を植えたり、家庭菜園で野菜を育て収穫したりと、季節感を取り入れて居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者が日中の大半を過ごすリビングルームは、季節毎の飾り物や、交流のある小学生からの手紙や写真を飾り、明るい雰囲気である。中庭の菜園では、花や野菜の手入れや収穫を行い、季節を感じながらの暮らしがある。室内は、音や照明、温度や湿度、臭いに注意し、穏やかな気持ちで快適に過ごせる共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に、窓際にソファ、または和室スペースがあるので、独りになれたり、気の合った入居者同士自由に過ごせるような場所を確保している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、違和感のないように入居者が自宅で今まで使い慣れた物を、居室で使用して頂いている。また、家族の写真を飾ったり、テレビ、お仏壇を持って来られている方もあり、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの使い慣れた家具や仏壇、テレビや鏡、家族の写真等、沢山持ち込んでもらい、家族と相談しながら、その人らしい居室になるように配慮している。数名の方が仏壇を持って来られ、お花を供えたり、お水を替える等、利用者の残存能力に応じたお世話が出来るよう支援している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間である玄関・廊下・居間・トイレ・浴室に手すりを取り付けている。トイレは車椅子でも対応できるようになっており、一人ひとりが安全、かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		